

■ニセコ町森林ビジョン（案）に対する意見の募集結果と意見に対する回答

○意見の募集

期 間：令和3年6月23日（水）～令和3年7月9日（金） 計17日間

方 法：告示、町公式ホームページでの公開及び役場企画環境課にて縦覧

○意見等の内容と回答

意見等の件数：4件

no	意見内容	回答・対応
1-1	1. 意図してそうなっているのかどうかは分かりませんが、非常にアバウトな、あいまいな形（やんわりとした総花的）でビジョン、および基本方針が語られているため、どのようにでも受け止められると感じました。例えば、5つの基本方針にある森林環境の整備・保全、森林資源の利活用、森林空間の活用という3つは、ほぼ同じ意味のことを指しているように思います。私を含め、町民の方々を巻き込むことが前提であれば、より明確な形にしたほうが良いとは個人的に思いました。	本森林ビジョンは目指すべき将来像や取組の方向性を示したもので、実現に向けた具体的な目標については別途実施に向けた計画を定め進めていきます。 森林環境の整備・保全、森林資源の利活用、森林空間の活用という3つは、ほぼ同じ意味のことを指していると指摘ありますが、環境整備、素材の活用、空間の活用であり、相互に関連してきますが異なる内容となっています。
1-2	2. 世界中で日本の林業がここまで放置されてきたのは、基幹的な林道と作業道が整備されていないことも大きな一因です（材価は世界価格ですから、それが低下して機能しなくなったのは日本だけの特殊事情です）。にもかかわらず、ビジョンの中で、この道づくりというインフラの部分を取り上げていないのは違和感があります。既存の道道、町道との接続で、山々にどのようにアクセスできるのかのマスタープラン的なものを策定し（土地所有者の合意や立木の種別や樹齢は関係なく、単純に地形と立地、土質などの条件から）、毎年そのマスタープランに従ってコツコツと所有者の合意が取れたところにおいて、それを実現してゆくことを50年ほど継続しないと、ニセコ町において森林整備がなされ、環境が保全され、資源を利活用でき、多様な空間利用を可能にするようなイメージが全く湧きません。この点については、検討され、それでもビジョンからは外すという見解だったのでしょうか？ 加えた方が良く個人的には思いました。	上記同様、本森林ビジョンは目指すべき将来像や取組の方向性を示したもので、実現に向けた具体的な目標については別途実施に向けた計画を定め進めていきます。 なお、作業路網整備は重要であり、ニセコ町森林整備計画に基づき、またニセコ町環境モデル都市第二次アクションプランでの提示も踏まえ、計画的に進めていくこととしています。
1-3	3. 事業者の育成の部分に、作業員の安全にかかわる対策の向上、作業環境の改善、などについて触れられていないのは違和感がありました。林業は、3K、4Kと言われる建設業以上に飛躍的に危険で、厳しい職場です（もちろん美しい自然の中、野外での作業はその反面、素晴らしい職場環境でもあります）。それ故、育成の部分では、安全にかかわる事柄、および作業環境の改善に関わる事柄がセットで言及されてなければ、少子化、人口減少下での日本、ニセコ町において森林環境に手を入れる人材に枯渇することが危惧されます。その点への配慮が明文化されていると良いと個人的には思いました。	上記同様、本森林ビジョンは目指すべき将来像や取組の方向性を示したもので、実現に向けた具体的な目標については別途実施に向けた計画を定め進めていきます。 そのうえで、ご指摘いただきました安全対策の向上等については、本ビジョンにおいても基本方針「③事業者の育成」において、文言を加え明示します。
1-4	4. 森林資源の利活用の部分で、森林資源に付加価値を高める取組としてのビジョンを語るのであれば、①将来的には大径材や広葉樹に特化すること、②（それらが育つまでの主力的な森林資源収入としての）キノコなどの食材の開発を行うこと、などに言及されている必要があるのではないのでしょうか。日本の森林資源の売上高では、木材とキノコはほぼ同額です。その点への言及があると良いと個人的には思いました。	上記同様、本森林ビジョンは目指すべき将来像や取組の方向性を示したもので、実現に向けた具体的な目標については別途実施に向けた計画を定め進めていきます。 いただいた意見も踏まえ、付加価値を高める取組の具体化・明示について検討していきます。
1-5	5. 獣害対策のない日本の森林に未来はありません。狩猟という作業と欧米などの高所得者層へアピールできるレジャーとしての狩猟を組み合わせるなど、ニセコ町らしい取り組みにも言及して欲しいと個人的には思いました。	上記同様、本森林ビジョンは目指すべき将来像や取組の方向性を示したもので、実現に向けた具体的な目標については別途実施に向けた計画を定め進めていきます。 いただいた意見も踏まえ、ニセコ町らしい取組について検討していきます。
1-6	もちろん、3～5が成立するのかどうかは、2の道というインフラがあるのかどうかで決まります。 以上のような趣旨について、2019年3月に策定された『ニセコ町環境モデル都市第2次アクションプラン』では、「取組3－8」において言及されていますので、この内容とビジョンが連動するような形になると個人的には非常にうれしく思います。	2～5のご意見、ニセコ町環境モデル都市第二次アクションプランの内容も踏まえ、連動・整合のうえで、本ビジョンが示す将来像に向けた取組を具体化させ、進めていきます。
2-1	1) 森林の活用を機に、近隣の森に町民が目向けるのは大切なことである。	—
2-2	2) 教育との連携が含まれているが、どのように何の教育に利用するのか。（以下3、4参照）。学童のみでなく、大人も教育の中にも含むべき	木育については子供に限らず、また、森林づくりにおいても「誰もが気軽に参加できる」機会を創出していきたいと考えています。具体的な取組内容については、今後設立する「森林づくり町民会議」などで意見交換し、また、関係者とも調整しながら検討していきます。
2-3	3) 産業としての森林の活用のことしか言及されていないのがおかしい。直接的な経済効果だけがビジョンの大枠にあげられていることへの懸念	本ビジョンにおいて、「森林の循環」の輪を形成していくこととしており、その循環の輪においては、産業面だけでなく、基本方針④森林空間の活用において、文化活動での活用や環境教育・保育への活用なども欠かせないものとしております。
2-4	4) 人間の産業資源としてみるだけではなく、防災（水害、土砂災害、防風林）；水源保護；二酸化炭素固定；生物多様性の保護の観点からも活用すべき。多方面からのアプローチと見識を広める機会をもうけてほしい。	【資料編】で明示していますが、防災や水源涵養、生物多様性など、森林は多面的な機能をもっていますので、森林活用においてはそれらを踏まえ、検討していきます。また、その多面的機能について、情報の発信と参加機会の創出に取り組んでいきたいと考えています。
2-5	5) 近隣の山は自治体をまたいで存在している。自治体の枠を超えての活動に（すぐには不可能でも）広げて行く必要があると強く感じる	国や北海道、近隣自治体、森林組合や関係機関などとの、広域的な連携・取組について、どのようなことが可能かも含め検討していきたいと考えています。

■ニセコ町森林ビジョン（案）に対する意見の募集結果と意見に対する回答

○意見の募集

期 間：令和3年6月23日（水）～令和3年7月9日（金） 計17日間

方 法：告示、町公式ホームページでの公開及び役場企画環境課にて縦覧

○意見等の内容と回答

意見等の件数：4件

no	意見内容	回答・対応
3-1	1) 動物が暮らしていくためには、森が分断されることなく繋がっている環境が必要。町の1/4ほどを占める山(アンヌプリ、昆布岳、羊蹄山)のそれぞれの環境を繋ぐものとして、自然林と人工林がバランスよくあってほしい。ニセコ町という行政区分だけで考えるのではなく、山麓を取り囲む大きな視点で考える。	生物多様性保全など森林の持つ多面的な働きを踏まえ、ニセコ町らしい森林づくりについて、ご提案いただいた手法も参考にしながら検討し、進めていきたいと考えています。 また、国や北海道、近隣自治体、森林組合や関係機関などとの、広域的な連携・取組について、どのようなことが可能かも含め検討していきたいと考えています。
3-2	2) 狩太神社裏手の広い土地が売りに出ているが、このように広い区画が販売されている場合に、ニセコ町が土地取得基金などを活用して買い取ったり、森林保全を行うトラストやNPOが買い取ることで、開発されない土地を増やしていくべき。森林や緑地として残すことで、町民が緑地と森林の保全に携わる方法を考える。	
3-3	3) 新しく用地買収がなされ、林地が開かれて木を伐採して建物が建ってしまったら、そこに住めるのは人間のみ。林業活性化もできなくなり、持続可能な開発と逆行する。	
4-1	森林の多面的な機能に対して、木材の循環利用の課題を強く意識した文脈となっていますが、 ① 生物多様性を維持する天然林 ② 資源や土壌崩落防止などの保全林 ③ 林浴やキノコ・山菜などの利用林 ④ 木材生産林 など、その森林の主機能によって人の手の掛け方が異なります。それを全て木材の循環利用に帰するのは違うと思います。それぞれの目的に応じて、適切に維持管理されるべきであるのは異論ありません。それぞれの森林機能に応じた関わり方に言及していただきたいと考えます。 また、気候変動非常事態宣言を踏まえ、将来に渡りCO2の吸収を確保するためには、 ① 開発などによる森林面積減少を抑制する ② 適切な間伐等により森林容積を大きくする（上に伸ばす） ③ 林の成長量の範囲内で木材資源活用する ④ 木（CO2吸収少）⇒成長期（同大）⇒成熟木（同小） のサイクルの中でCO2吸収量を最大化する伐採計画 といった観点が必要と考えます。	本森林ビジョンは目指すべき将来像や取組の方向性を示したもので、実現に向けた具体的な目標については別途実施に向けた計画を定め進めていきます。 いただいた意見も踏まえ、実施・具体化に向けた検討を進めていきます。
4-2	体系的にはこの通りなのですが、古い計画がいつまでも正である前提では、変化に対応できません。特に「気候変動非常事態宣言」を行ったのであれば、少なくともそれに関する部分は、上位計画といえども見直しされるべきです。	各計画について、それぞれ見直しのタイミングがあるところ。本ビジョン策定後においては、関係する計画等の見直しの際に、本ビジョンと整合した内容としていきます。
4-3	何の期間なのでしょう？ 想定している将来像の期間なのか、本ビジョンの施行期間なのでしょう。現状の記述では、あまり意味がないように思います。	「ニセコ町森林ビジョン」では、20年後、50年後のニセコ町において理想とされる森林の将来像を想定しつつ、今後の基本的な方向性を明らかにしています。 ご指摘のとおり、期間の対象が明確となっていないことから加筆修正します。
4-4	森林には、河川や海洋のプランクトンを増やし、豊かにする機能もあるので、言及してもらえるとより良いと思います。	【資料編】の森林のはたらしに、川や海を豊かにする機能を追記します。
4-5	樹種や樹齢等級が調査されており、素晴らしいと思います。 個人的な主観ですが、等級の割に貧相な森林が多いのではないかという気がします。（密集して薄暗かったり、ひょろひょろした木が多く、大きな木に育っていない） 次章の課題の背景には、そうした現状把握があるのではないのでしょうか？	(1) (2)については、捉え方・整理によるところかと考えます。これまでの調査、検討、議論を踏まえ、現行どおりとします。 また、(2)での間伐材等の利活用については、基本方針において「間伐材も含め無駄なく段階的に利用され、」としているところです。
4-6	課題の捉え方が違うと感じます ① 現状の問題点 ② 現れが発生した理由／原因 ③ 原因（真因）に基づく、解決すべき点（＝課題） (1)の「体系的継続的な森林整備が行われてこなかったこと」は、「貧相な森林が多い」とか「町有資源である森林が経済利用されていない」といった現状の問題点の理由を述べているように感じます。課題とするなら、「体系的継続的な森林整備のしくみの確立」とした方が良いと考えます。 (2)の「ニセコ町産の木材が流通していない」は、地域資源である森林資源を活用していない、と大きく括った方が良く感じます。主材利用が最重要ですが、間伐材や打ち捨て残滓も利用することで森林の経済的価値があがると考えます。 後者を燃料利用すれば、化石燃料の使用量を減らせ、町外流出するお金も減るので、二重の意味があると思います。 ★追加していただきたい課題 世界的に見れば気候変動問題が非常に重要です。非常事態宣言を踏まえ、前述したように、①森林の乱開発防止 ②森林容積の増加（適切な管理で大きく育てる） ③成長量に見合った、かつ成長サイクルを考慮した適切な整備・伐採計画 を包括した課題を追加していただけないのでしょうか？	追加していただきたい課題としていただいた項目も踏まえ、実施・具体化に向けた検討を進めていきます。

■ニセコ町森林ビジョン（案）に対する意見の募集結果と意見に対する回答

○意見の募集

期 間：令和3年6月23日（水）～令和3年7月9日（金） 計17日間

方 法：告示、町公式ホームページでの公開及び役場企画環境課にて縦覧

○意見等の内容と回答

意見等の件数：4件

no	意見内容	回答・対応
4-7	<p>経済的側面が強調されていますが、やはり森林の多面的な機能に応じた像を描いて欲しいと思います。</p> <p>豊田市の森林100年構想では、各ゾーニングのイメージを絵にして示しているので判り易く、参考にしていただければと思います。</p> <p>記述の問題と思いますが、「（将来）像」というのは、（あるべき）姿、つまり「状態」です。50年後の将来像の記述にある、「～森づくり」「～存在です」「引き継いでいきます」という表現はそぐわないと感じます。20年後の方は、ちゃんと状態を示す表現になっています。</p>	<p>より分かりやすい記述となるよう、ご指摘いただいた点について修正します。</p>
4-8	<p>「事業者の育成」を挙げていますが、経済面に特化し過ぎではないでしょうか。最も大きな要因の1つだと思いますが、それ以外にも、下記を担う人の育成も重要と思います。</p> <p>①☑ 期的な森林計画を考える行政における林務機能 （これは整備・保全に含まれるかも知れませんが）</p> <p>②☑ の診断師やフォレスター</p> <p>③☑ イチャーターガイドやインタープリター</p>	<p>ご指摘のとおり、森林に関する様々な分野での担い手の確保・育成は重要と考えており、記述内容を加筆修正します。</p>
4-9	<p>先日、曾我森林公園を歩いてきましたが、余り魅力を感じませんでした。倶知安の朝日ヶ丘公園や100年の森の方が、散策して楽しいと感じます。100年の森では、ファンクラブもあり、色々な方がガイドなどもされています。</p> <p>また、豊田市には、企業が管理するフォレスタヒルズという再生天然林があり、自由に散策できるようになっています。ボランティアが間伐整備を行い、インタープリターが案内したり、「ふくろうの棲む森づくり」（フクロウは森の生態系の頂点に立つ鳥であり、フクロウが住むためには、ピラミッドの全ての生物が棲める森でないといけないことを考える機会とするのが狙いです。ピオトープを作ったり、下草を刈ったり、間伐をしたり、ということも含まれます）や「炭焼き」といったイベントなどを行って、森に親しんで貰う場を提供しています。</p> <p>ボトムアップの1つとして、ご参考まで。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後、町民が体験できる森林空間づくり等を検討していく際に参考にさせていただきます。</p>